

第67回 令和7年7月18日（金）

明日から夏休みです。毎日書いている日誌も休み明けまでしばらくお休みです。ここ何年かの暑さは尋常ではないので、体調が悪いときは無理をせず休憩をしてください。（人によって限界は違います。）また水の事故にはくれぐれも気を付けてください。

夏休み前なのでいくつか本の紹介をします。どの本も学校推薦図書ではありませんが、私が最近読んで面白かったものです。

佐川恭介さんの「学歴狂の詩」。これは久々に本を読んでいた大笑いしました。コンプライアンス的にどうなのというところもありますが、単純に面白い本でした。1時間で読めます。

ルポ「誰が国語力を殺すのか」石井光太著。今の小学生は「ごんぎつね」をそう解釈するの？と衝撃でした。将来教師を志す人はぜひ読んでください。ものすごく共感しました。

海外ミステリーなら「ストーンサークルの殺人」からはじまる「ワシントン＝ポー」シリーズ。勉強の合間の息抜きにピッタリです。キャラクター造詣がしっかりしているので読みやすいです。5作品出ていますが全部読むと3500ページくらいあるかな。それでも半月で読んでしまいました。

現在27巻以上出ているのが「逆説の日本史」シリーズ。井沢元彦著。断定的で全部が肯定できるわけではないのですが、クリティカルシンキングに最適です。史料絶対主義とは一線を画しており、日本史の流れが良くわかります。

ハンス・ロスリングの「ファクトフルネス」は大ヒットしたので読んだことある人もいるかと思いますが、一度は読んでみたほうが良いと思います。世界観が変わります。またファクトチェックの重要性がよくわかりますし、データの大切さが理解できました。

安宅和人の「シン・ニホン」も少し前に読んだのですが面白かったです。未来を考えると指針になる本だと思います。心が疲れた時は草薙龍舜の「反応しない練習」がおすすめです。私は何回も読み返しています。

私は鈍器本と言われるページ数が多いものが好きなので京極夏彦作品はほとんど読破しました。

宮部みゆきの三島屋百物語シリーズも好きです。

私は「町の本屋さんをつぶさないぞ」プロジェクトを一人で勝手にやっているのですが、新しい本を大人買いします。週に一度の本屋さん通いが一番の趣味で、いろいろな書店を順番に巡ります。ネットでは味わえない本との出会いが大好きでワクワクします。

部活や勉強に忙しい毎日かと思いますが、本は自分を別の世界に誘ってくれます。私も隙間時間で1カ月に10冊程度は本を読むようにしています。活字を読むことは動画を見るのと違い頭の中で場面の想像をする必要があります。知識を得るだけでなく、創造性や判断力を鍛えることにもつながります。

休み中は授業に使っていた時間が自由になります。何に使うか、計画立てて有効に使ってください。それでは休み明け、またみなさんの元気な顔が見られることを楽しみにしています。